

	岩手大学 学際分野
学部等の教育研究組織の名称	人文社会科学部 (第1年次: 215名 第3年次: 10名) 人文社会科学研究科 (M: 16名)
沿革	昭和24(1949)年 岩手大学 設置 昭和29(1954)年 一般教育部 設置 昭和41(1966)年 一般教育部を教養部に改称 昭和52(1977)年 人文社会科学部 設置 平成2(1990)年 人文社会科学研究科 設置
設置目的等	昭和29(1954)年に、一般教育部が設置された。 昭和41(1966)年に、一般教育部から教養部へ改称された。 昭和52(1977)年に、教養部を改組し全学の一般教育と総合化された人文社会科学系の専門教育を一体化して行う新構想の学部として人文社会科学部が設置された。 平成2(1990)年に、より高度の真に学際的・総合的な人文社会科学を体系的に構築する研究教育体制を編成し、これによって急速かつ広範に変動する現代社会の諸課題に対応しうる総合的視野と高度の専門的判断力をもつ人材を育成することを目的として、人文社会科学研究科が設置された。
強みや特色、社会的な役割	【総論】 岩手大学における人文社会科学分野においては、真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施してきた。 引き続き、上記の役割を果たしながら、教育及び研究において明らかにされる強み・特色・役割等により、学内における中長期的な教育研究組織の在り方を速やかに検討の上、実行に移す。 【教育】 (学部) ○ 総合化を踏まえた専門深化という理念の下、人文・社会・自然科学の学問分野の教育研究を通じて、人間、文化、社会、環境を現象だけにとらわれず、それぞれの本質的視点から分析し、それらを総合し、判断する能力を有し、広く社会で活躍できる人材を養成する。 ○ このため、分野横断的なテーマを総合的・複眼的に学ぶことにより問題洞察力を育成する「総合科学論」を学部共通の必修科目として開講す

ると同時に、学生が所属するコース（主専攻）の専門分野の学習・研究を深めながら、それとは異なる他コースの専門科目群を副専攻として系統的に履修する主副専攻制度の導入によるカリキュラムのパッケージ化を図っている。

- 今後、カリキュラム改革の平成 26 年度実施に向けた準備（グローバル人材育成の観点も含めた主副専攻制度の拡充）を進めるほか、教育研究分野の在り方を含め、他学部と連携した改組や、18 歳人口動態を踏まえた定員規模の適正化を図る。あわせて、卒業時に必要とされる資質や能力を可視化しつつ体系的な教育課程を編成するとともに、学生の能動的学習を促す教育の実施や組織的な教育体制等により、学士課程教育の質的転換に取り組む。

（大学院）

- 高度で知的な素養を持って地域社会又は国際社会において知識基盤社会を多様に支える人材、及び地域の教育、福祉・医療分野を支える臨床心理士等の高度専門職業人を養成する。
- このため、学際的な視野を獲得するための「サステナビリティ論」や分野横断的な集団指導体制による「総合演習」を必修科目として開講しており、臨床心理学教育研究領域では、被災地での支援実習を含む実践的な科目の充実・強化に取り組んでいる。
- これらの取組を通じて、臨床心理士資格認定試験における過去 3 年間の平均合格率は、約 93%であり、全国平均（約 60%）を大きく上回っている。
- 今後、教育研究分野の在り方を含め他研究科と連携し、地域再生の観点も踏まえた文理融合・分野横断型の専攻設置を含む改組に取り組むなど、社会人、留学生を含め、時代の動向や社会構造の変化に的確に応え、課程制大学院制度の趣旨に沿った教育課程と指導体制を充実・強化する。

【研究】

- 岩手豊穡学、持続可能な地域社会の実現と「住まい」の在り方に関する学際的研究、東北地方の文学に関する日仏共同研究等、地域に根ざした学際的・分野横断的な共同研究を組織的に推進している。
- これらの取組を通じて、宮沢賢治を中心として「岩手の文化的豊穡性」を解明したことによる関連出版物の発刊やシンポジウムの開催、寒冷地でのエコ住宅・エコリフォーム普及への寄与等、研究成果を地域に還元している。
- 今後、人文科学分野における研究実績をいかし、宮沢賢治をはじめとする東北の文化や文学の研究、また低炭素社会の実現に資する研究などの社会科学や環境（自然）科学の研究実績をいかした持続可能な社会を目指す分野横断的な研究等、総合的な研究を組織的に推進するとともに、

地域の課題解決・文化の発展に組織的に取り組む。

【その他】

- 地域活性化の知的拠点としての機能を果たすべく、臨床心理士養成校としての専門性や、大学・自治体・企業等が協力して創り上げる「地域と創る“いわて協創人材育成＋地元定着”プロジェクト」等を通じて、広く地域社会の課題解決と地域文化の発展に貢献している。
- 岩手県沿岸市町村の復興と地域の持続的発展に向け、総合的な学部・研究科としての特性をいかし、臨床心理、まちづくり、環境科学などに関連する人文社会科学分野の教育研究資源の活用や、岩手県内の高等教育機関と連携する「いわて高等教育コンソーシアム」の活動を通じて、東日本大震災被災地の復興を継続的に推進する。